

18号の
クリエイターは
どんな人？



今回の表紙と特集は、江之子島のまちをよく知る人たちが
デザインしてくれたんだよ。これまでどんな活動してたんやろか。
ちょっと教えてえな。



■「東大阪フォント」(2018)
クライアント: 東大阪市政府
デザイナー: Kontrapunkt+近畿大学文芸学部
文化デザイン学科

■「えのこじまぐるぐる チラシ」(2018)
デザイナー: OOO Projects
イラストレーター: タダユキヒロ

OOO Projects + タダユキヒロ + 吉川涼水 (近畿大学3年生) さん
個と個がつながる様を会社名にしたOOO Projects(オー・プロジェクト)
は江之子島を拠点にさまざまなコラボレーションを行なっています。今回
は、イラストレーターのタダユキヒロさんと近畿大学文芸学部文化デザ
イン学科生、吉川涼水さんとコラボレーション。「えのこじま」の文字をグラ
フィカルにあらわしたデザインのベースは吉川さんの手によるものです。

enocoの地下1階スペースはリニューアル準備中！
あたらしいカフェが秋頃オープンする予定です。乞うご期待！

enokojima creates osaka
enoco

大阪府立江之子島文化芸術創造センター[enoco]
Enokojima Art, Culture and Creative Center, Osaka
Prefecture

アートやデザインの創造力で、都市を元気にすることを目指し2012年4月にオープン。展示
室や多目的室のレンタル事業を行うほか、企画展や公演、セミナー・ワークショップなどを
開催し、クリエイティブな人や情報が行き交うプラットフォームとなることを目指しています。

〒550-0006 大阪市西区江之子島2丁目1番34号
開館時間: 10:00~21:00(ただし展示室は催しによりオープン時間が異なります)
月曜・年末年始休館
電話 06-6441-8050 | FAX: 06-6441-8151
メール art@enokojima-art.jp
www.enokojima-art.jp

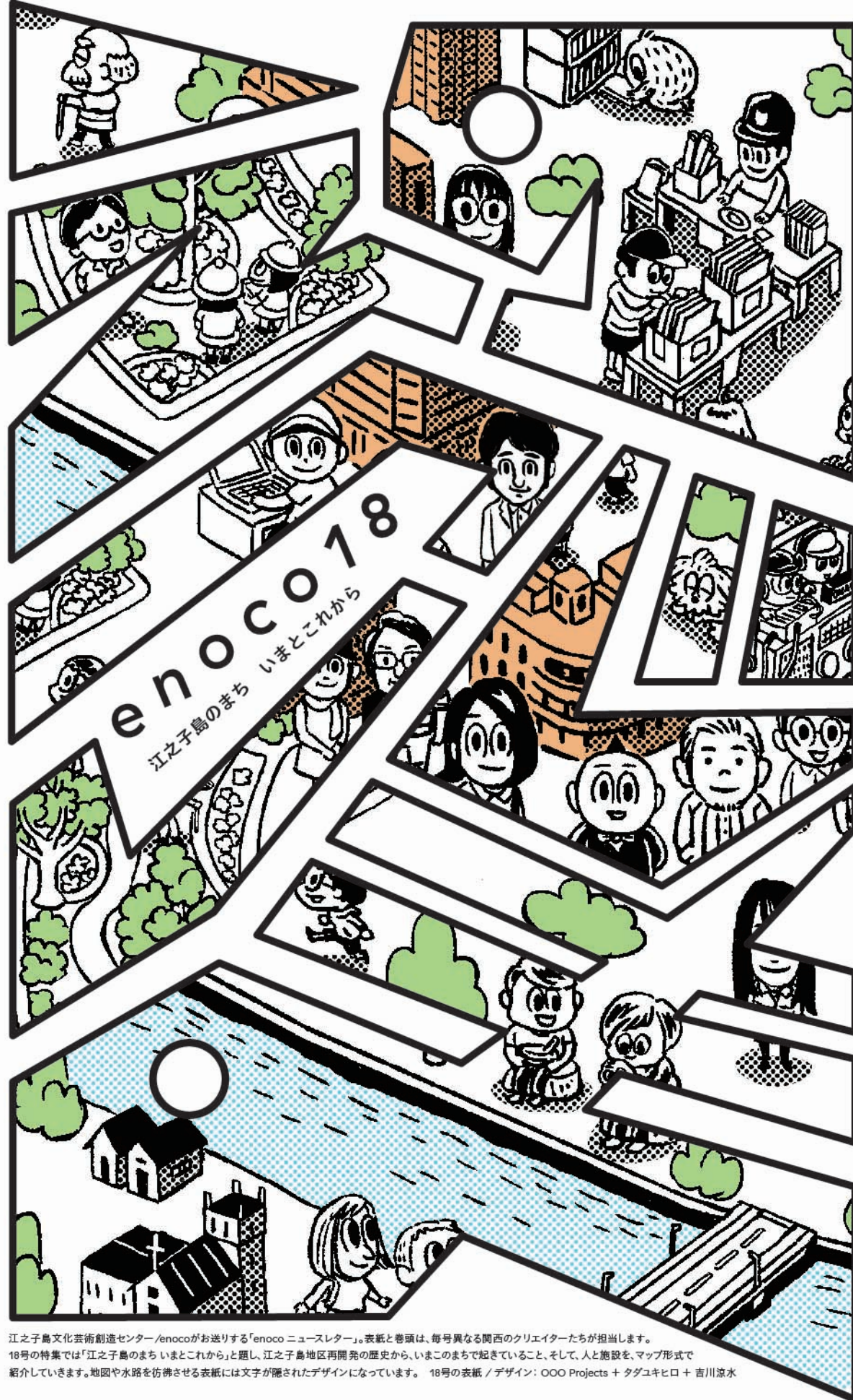
enocoニュースレター 18 2018年9月発行
| 発行 | 大阪府立江之子島文化芸術創造センター
| 編集 | 吉原和音(enoco 企画部門)
| 表紙・特集ページデザイン | OOO Projects + 吉川涼水
| イラスト(特集ページ・エノケン、似顔絵) | タダユキヒロ
| 特集ページ・テキスト協力 | 高岡伸一(近畿大学 建築学部 准教授)
| アートディレクション | 後藤哲也(OOO Projects)
| デザイン | 小池一馬(OOO Projects)

「enocoニュースレター」は、enocoが年3回発行する情報誌。
enocoで起きていることや、enocoにかかわる人々が日々考えていることをお伝えしていきます。

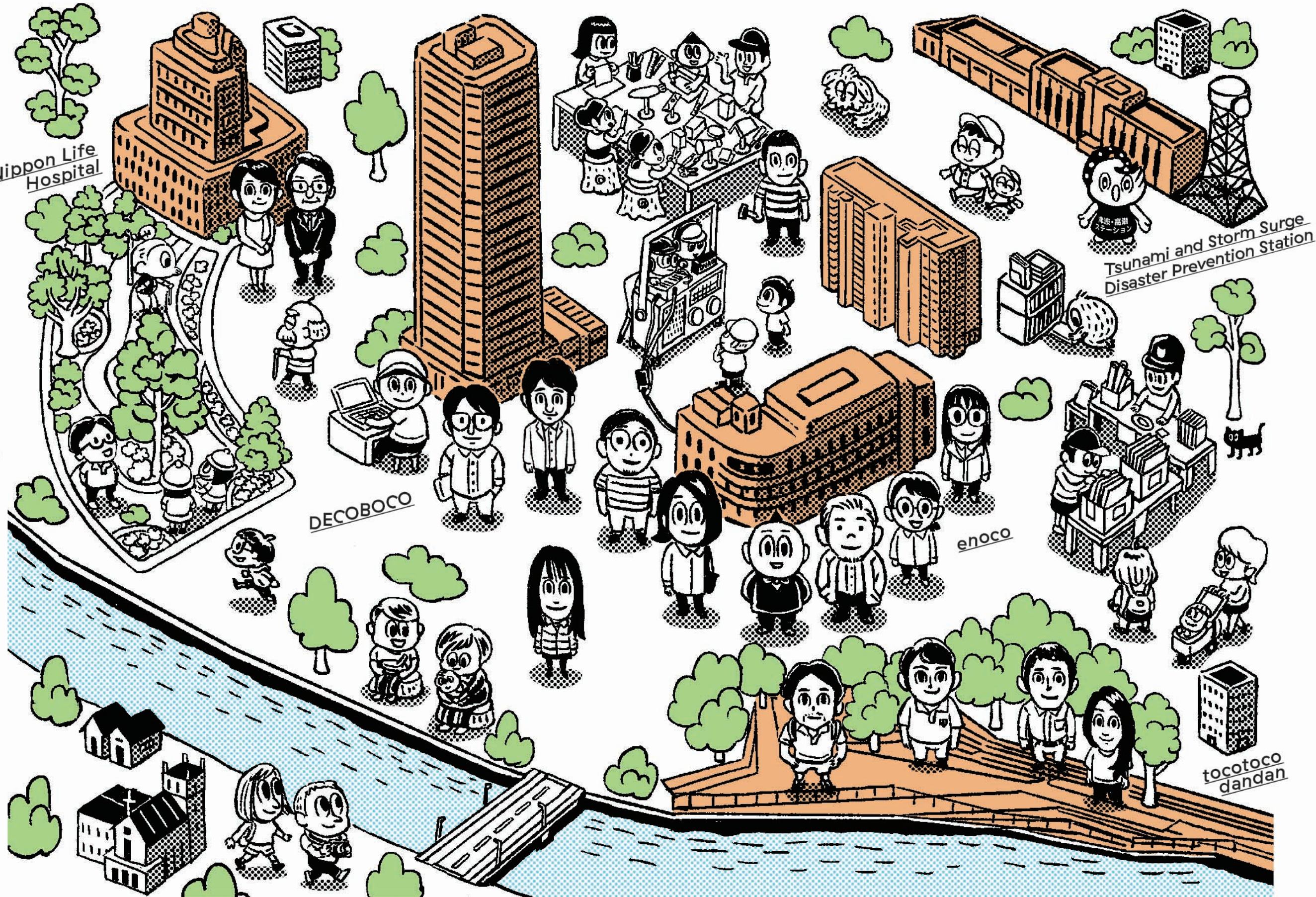


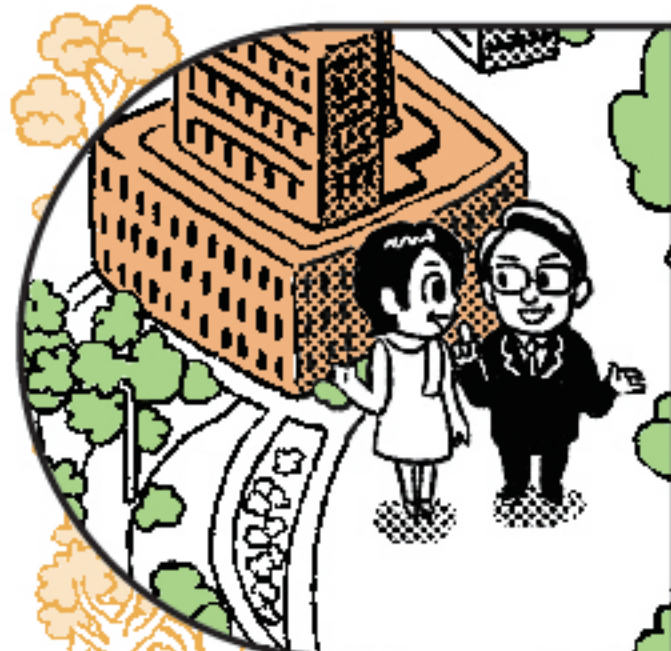
[アクセス]
地下鉄(Osaka Metro)千日前線・中央線「阿波座駅」
下車、8番出口から西へ約150m。徒歩約3分。

—— このチラシよう覚えとるわ。これをみながらまちの中をグル
グル歩きまわったなあ。
OOO これは、江之子島全体を会場にして開催したまちびら
きイベントのチラシで、企画もまちのみなさんとつくりあ
げました。これまでの活動が凝縮されたビジュアルにな
っています。近隣の小学生の会話にも出てきていた
ので、ちゃんと伝わるデザインができたかなと思います。
—— 次は…え。これは文字？これも作ったん？
OOO 東大阪市役所が2019年のラグビーワールドカップに
向けて「モノづくりのまち 東大阪」を国外に発信する事業
を、近畿大学文芸学部文化デザイン学科で担当して、
デンマークのデザインエージェンシーKontrapunktと
共に東大阪市役所が書類などで使う欧文書体とそれ
を用いたタグラインを制作しました。まちのリサーチを学生
と進め、ものづくりの現場に足を運び、その精神を抽出
したデザインをこれから展開していきます。
Kontrapunktは現在、江之子島のFLAGスタジオを大阪
の活動拠点に選りプロジェクトに取り組んでいます。文
化デザイン学科も同スタジオをサテライト研究室として
利用中。創造的な活動が生まれるハブとしての江之子
島を推進するひとつの事例として選んでみました。
—— なるほど。デザインだけやないんやなあ。展覧会やワーク
ショップなんかもやったりやん。これからちょくちょく覗きに
行くわ！



江之子島文化芸術創造センター/enocoがお送りする「enoco ニュースレター」。表紙と巻頭は、毎月異なる関西のクリエイターたちが担当します。
18号の特集では「江之子島のまち いまとこれから」と題し、江之子島地区再開発の歴史から、いまのまちで起きていること、そして、人と施設を、マップ形式で
紹介していきます。地図や水路を彷彿させる表紙には文字が隠されたデザインになっています。 18号の表紙 / デザイン: OOO Projects + タダユキヒロ + 吉川涼水





公益財団法人日本生命済生会 日本生命病院

施設の紹介

日本生命済生会は、大正13年、日本生命によって「相互扶助」「共存共栄」という生命保険事業の精神を实践する場として、「済生利民（人の生活といのちを救い、人のお役に立つこと）」を基本理念として設立されました。昭和6年に名門福方病院の土地建物を承継し、大阪市西区新町に「日本生命病院」として開院。済生会設立当初より、無料健康相談・生計困難者への無料低額診療活動、救急救護活動、巡回診療などを行い、また現在も社会福祉施設への無料検診活動等、医療を通じて社会貢献に取り組んでいます。そして本年4月30日、病院名を「日本生命病院」として新たにスタート。地域医療に貢献していくとともに社会のニーズに応える最良の医療サービスを提供できるよう努めています。



いまの活動

アートと医療の融合に向けた具体的取組みとして、近畿大学文芸学部文化デザイン学科と共同による、2階外来診療フロアでの「四季の彩り」基本デザインの制作やイングリッシュガーデン「ニッセイ四季彩ガーデン」のおさんぽマップ制作、工房でのワークショップなど様々な取組みを展開しています。

これからの展望

工房での活動は、今後、更に具体化していく予定です。ボランティアによるワークショップの開催を予定しています。
(当館の開催予定)・ポタニカルアート教室(9月中旬)
・カルトナージュ教室(9月下旬)

【住所】大阪市西区江之子島2丁目1番54号
【利用方法】イングリッシュガーデン、コリドーは誰でも利用可能。工房プログラムは病院Webサイト、院内掲示等により案内。敷地内全面禁煙。



津波・高潮ステーション

施設の紹介

かつて大阪を襲った高潮や、近い将来必ず大阪を襲うと予測されている南海トラフ巨大地震と津波について正しい知識を習得していただくとともに、地震、津波発生時の対応などを学べる、広く開かれた施設です。



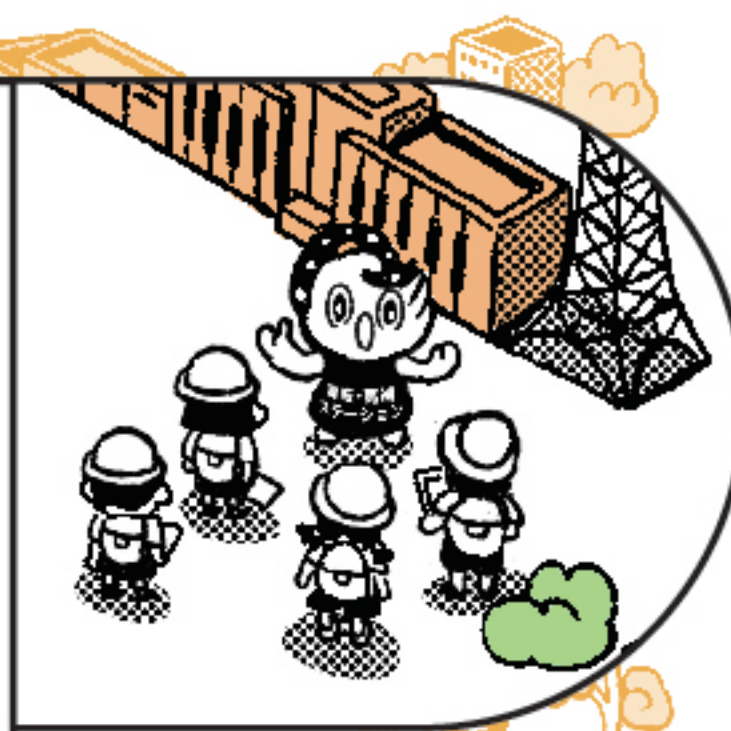
いまの活動

高潮時に海面より低くなる土地が多い大阪は、台風や高潮による災害にたびたび苦しめられてきました。これに對し着実に実施されてきた高潮対策を学んでいただき、津波災害を経験した先人が残してくれた教訓を活かした「津波災害体験シアター」で、高潮とは異なる津波の脅威から命をまもるための術を身につけることができます。

これからの展望

2017年2月より、日英中韓の四か国語でWeb上に展示案内や動画を公開し、地震や津波を仮想体験できる「(通称)バーチャルつなステ」を開館しました。津波から命を守るためには、適切な避難が不可欠です(大阪の場合、地震発生後2時間以内に3階以上へ避難)。東日本大震災と同程度の避難率であれば、大阪で13万人以上が犠牲になると予測されている南海トラフ巨大地震の津波の被害が、限り無くゼロに近づくよう、啓発効果の高い当館のコンテンツをご活用下さい。また、「東日本大震災追悼イベント ぼうけのついで」今年は11月11日に開催します。

【住所】大阪市西区江之子島2-1-54
【電話】電話06-2541-7793
10:00-18:00 休館日：火曜日(祝祭日の場合は
振替日)及び年末年始
【利用方法】無料。事前予約不要(団体の場合は予
約必要)。館内飲食禁止。敷地内禁煙。



トコトコダンダン (木津川遊歩空間)

施設の紹介

2017年4月オープン。水都大阪再生事業の一環として、ワークショップやデザインコンペなどの仕組みで地域住民のニーズを反映して整備されました。水辺の自然を身近に感じられる、みんなの新たな憩いの場です。

いまの活動

月に1回、草木の手入れや清掃などのアドプト活動を行っています。音楽や食べ物など、それぞれの得意なものを持ち寄りシェアする「シェアリングピクニック」や、気持ちのよい風を感じながらの「おそらヨガ」など、楽しいイベントも随時開催しています。

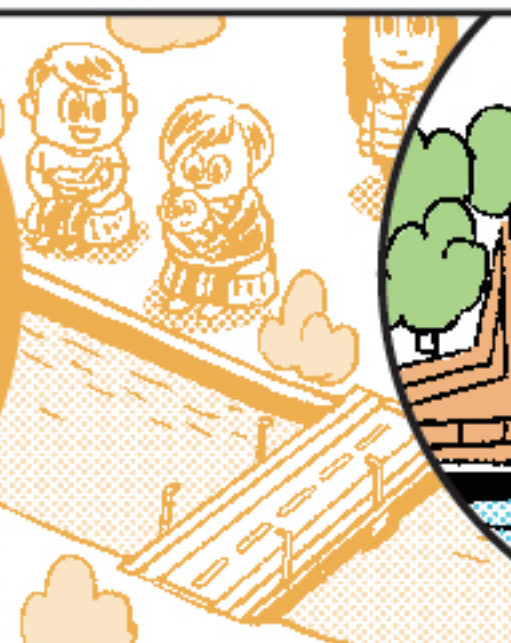
これからの展望

シェアリングピクニックや植栽ワークショップなどのイベントを定期的に開催し、地域の方により愛される場所になっていてもらいたいと思っています。

【住所】大阪市西区新町4丁目・立売堀6丁目
【電話】トコトコダンダンの会事務局
(NPO法人トイボックス内)06-3733-6644
24時間利用可能
【利用方法】等々ありませんが、この場所は、「河川敷」のため利用内容によっては許可を受けなければ利用できない場合があります。詳しくは西大阪水事事務所(06-2541-7773)までお問い合わせください



かつて大阪の中心であった江之子島は、長い空白期間を経て、新しいライフスタイルの発信地へと生まれ変わろうとしています。今はまだ「江之子島ってどこの島?」という声が多い状況ですが、まちづくり事業が始まって約10年、そしてこれからの10年で、誰もが知る憧れの街へと成長していくかどうか問われます。そのコンセプトはいわば、「健康で文化的な必要十分の都心生活」。まちづくり事業のプロセスを共有し、今後の街のあり方をパイロットアクションを重ねつつ模索してきたプレイヤーが集まって、2017年に「えのこクラブ」という人的つながりのプラットフォームが結成されました。そこには江之子島の人だけではなく、近畿大学の学生やホスピタルアートのNPO、そしてトコトコダンダンをはじめとする、周辺地域で活動する人や企業が加わり、その輪はさらに広がっています。歴史を改めて振り返れば、江之子島とその周辺は大阪における文明開化の中心であり、都市の生活を支える水都大阪の発達した水路網の基点でした。そして21世紀の江之子島は、「アート&ライフスタイル」の新たな都市文化の発信拠点であると共に、活発なアクティビティを担う都市生活者のネットワーク網の基点となることを目指していきます。





「これから」のイベント情報 coming events

enocoの学校が今年度よりリニューアル!座学と体験を組み合わせた新講座
enocoの学校<アウトプット学科>



座学だけじゃない!
体験をメインにしたワークショップだけでもない!
学んだことをすぐに実践できる場のある講座、それがenocoの学校<アウトプット学科>です。建築・ガーデニング・食・花といった各分野の専門家を講師に迎え、様々な講座を開催します。専門家から学んだことをenocoやまちを舞台として表現してみましょう。
まずは、9月から近代建築講座「大阪の近代建築のサポーターになろう」と、緑化講座「マチとウチを彩るガーデニングを学ぼう」の2講座を開講します。

―
(1)「大阪の近代建築のサポーターになろう」
「大阪の近代建築」の歴史や魅力、建築の見方・愛で方についてレクチャーを受け、近代建築の基礎知識を身につけます。修了後は10月27日、28日開催の「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪」のボランティアに参加して学んだことを活かしましょう。

―
日時
①9月19日(水)19:00-20:30
②10月6日(土)14:00-16:00
参加費 6,000円
※大阪市内の近代建築見学の交通費は参加者負担
定員 25名(先着順受付)
場所
①江之子島文化芸術創造センター(enoco)
②淀屋橋周辺集合予定
講師 高岡伸一(建築家、近畿大学建築学部准教授)



(2)「マチとウチを彩るガーデニングを学ぼう」
公園や道路などの街の緑づくり、お庭やベランダなどの家庭の緑づくり、その両方を学べます。全5回の講座では、緑を開始したまちづくり、ガーデンデザイン、グリーンマネジメントの各専門家から実践的なノウハウを学びます。enocoの近くの日本生命病院やトコトコダンダンをアウトプットのフィールドとして想定しています。

―
日時
①9月9日(日)、②9月16日(日)、③9月30日(日)、
④10月7日(日)、⑤10月14日(日)
いずれの日程も14:00-16:00
参加費 10,000円
定員 20名(先着順受付)
場所 江之子島文化芸術創造センター(enoco)
※回によって、周辺に移動することがあります
講師
忽那裕樹(enocoプラットフォーム部門チーフディレクター／E-DESIGN代表)
城水麻衣子(ランドスケープアーキテクト)
月ヶ洞利彦(株式会社グリーンチーム代表取締役)

―
その他、食やDIY、フラワーアレンジメントなど多様な講座を計画中。最新情報はWebサイトでご紹介していきます。
申込
enocoWebサイト専用フォームからお申し込みください。申込締切は各講座の初回日の1週間前まで(必着)。※定員に達しない場合は継続受付します。申込方法・プログラム内容詳細はWebサイトでご確認ください。

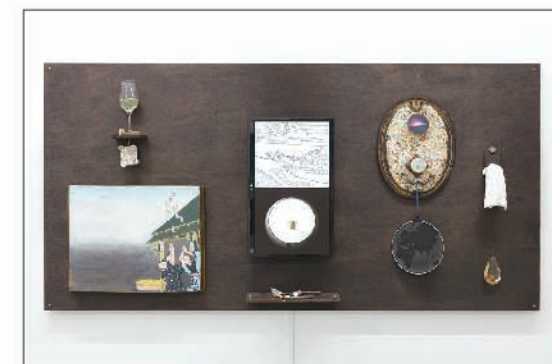
伝わる文章と写真術 ～SNS編～
ミサキノ編集教室



大阪府内の市町村等における課題解決をサポートするプラットフォーム形成支援事業の一つが大阪最南端の町、岬町ではじまりました。
この「ミサキノ編集教室」は、文章と写真の専門家を講師に招き「伝わる文章と写真術」を学び、レクチャー後は岬町内のイベントに出かけ、その場でSNSに投稿し、講師から添削アドバイスも受けられるオンザジョブのプログラムです。実際に体験してみると、自分の伝えたい視点や言葉を発見、編集する技術が身につきます。
受講後には「ミサキノエディター(仮)」として、岬町オフィシャルSNSからの情報発信に継続して参加できる取り組みです。

―
開催日時
①9月29日(土) 15:00～16:00
②11月4日(日) 13:00～16:00
③12月9日(日) 15:00～16:00
*応募〆切は各講座開催の1週間前です。3講座連続受講をお勧めしますが、1講座ごとにお申し込みいただけます。
場所
まちづくり交流館(南海電鉄多奈川線「多奈川駅」徒歩1分)
内容
①ミサキノ酒場編(インスタグラム)
②多奈川沿線まちあるき編(フェイスブック)
③岬町大交流会編(ツイッター)
文章講師
中川悠(イシューキュレーター／株式会社GIVE&GIFT取締役／NPO法人チュラキューブ代表理事)
写真講師
日根野太之(フォトグラファー、香川県多度津町広報ディレクター／タウンプロモーション)
主催 岬町
Webサイト <https://bit.ly/2OqWVa1>

大阪府20世紀美術コレクション展



2019年1月に開催予定の大阪府20世紀美術コレクション展は、現代美術作家Yukawa-Nakayasuと共に、コレクションの新たな活用と展示の可能性を探ります。厳選されたコレクションとYukawa-Nakayasuの作品とを組み合わせることで、それぞれが個別の作品の領域を超えて、新たな作品として意味を持ちます。
こうした従来のコレクション展とは異なる展示会の構想は現在進行中。enoco担当者とYukawa-Nakayasuは日が一收藏庫にこもり、作品を選定、展示プランを捻出す日々を過ごしています。
新しい試みがどのような展示会になるのか。2019年の新春、ぜひご自身で体感してください。

―
Yukawa-Nakayasu
2012年大阪を拠点に活動開始。近年では、2018年にThe 12th Arte Laguna Prize 大賞受賞(アルセナーレ、ベネチア)、2017年に『Falls from the skies』(コペンハーゲン、Nikolaj Kunsthal)など。2015年度には、enoco[study?]*3入選アーティストとして、enocoにて個展開催。http://yukawanakayasu.net/
会期 2019年1月11日(金)～27日(日)
時間 11:00～19:00
会場 江之子島文化芸術創造センター(enoco) 1階ルーム4
休館日 月曜日
料金 無料

写真は参考イメージ
Yukawa-Nakayasu
<reconstructing the "Deep Breath"> 2018

写真: 日根野太之

写真: 森生田兵衛

エキシビジョンカレンダー 2018年9月 - 12月 exhibition calendar

月	会期	時間	展覧会名	ルーム
9	18(火) - 23(日)	11-18(日曜11-16)	吉田脩二 井上和雄 それぞれの個展	[ルーム1]
	25(火) - 30(日)	11-18(日曜11-16)	新槐樹社 大阪支部展	[ルーム1]
	25(火) - 30(日)	11-19(日曜11-16)	コクヨ水陽会展	[ルーム2]
	2(火) - 13(土)	11-19(月曜休)	「プレスアルト」誌と戦後関西の広告	[ルーム1]
10	2(火) - 13(土)	11-19(月曜休)	大阪府20世紀美術コレクション 特集 田中一光	[ルーム2]
	2(火) - 7(日)	未定	CHART project	[ルーム4]
	9(火) - 14(日)	10-20(日曜10-16)	博報堂OB文化祭2018	[ルーム4]
	16(火) - 21(日)	11-18(日曜11-16)	第64回 チャーチル会大阪展	[ルーム1]
	16(火) - 21(日)	10-20(日曜10-16)	NASOOME SOLO EXHIBITION 12. ※ルーム3は10/20(土)まで	[ルーム2,3]
	23(火) - 28(日)	10:30-20(日曜10:30-16)	全国彫紙アート展 2018	[ルーム1]
	23(火) - 28(日)	10:30-20(日曜10:30-16)	彫紙アートSHOP	[ルーム2,3]
	23(火) - 28(日)	10-18(日曜10-16)	第33回 新具象展	[ルーム4(A)]
	30(火) - 11/4(日)	11-19(日曜11-16)	第17回 国画会 大阪作家展	[ルーム1,2]
	30(火) - 11/4(日)	10-19(日曜10-16)	公募 造形「フォルム」第8回展	[ルーム4]
11	6(火) - 11(日)	10-18(日曜10-16)	第17回 創友会展	[ルーム4]
	13(火) - 18(日)	10-19(日曜10-16)	第12回 大阪府土曜会・趣味の作品展	[ルーム4]
	20(火) - 25(日)	未定	第50回 グループ中之島絵画展	[ルーム4]
	27(火) - 12/2(日)	未定	山村善太郎写真展「悠久の日本人のこころ-磐座-」	[ルーム4]
12	4(火) - 9(日)	未定	ペントハウスの会展	[ルーム4]
	11(火) - 16(日)	未定	第五回 写真クラブ松の木会写真展	[ルーム1]

くわしくはWebサイトをご覧ください www.enokojima-art.jp

PICK UP

『プレスアルト』誌と戦後関西の広告

1937年に脇清吉によって創設されたプレスアルト研究会は、広告印刷物やパッケージ、包装紙などの「実物」を、その批評を掲載した冊子とともに綴じ、「プレスアルト」誌として頒布しました。関西発の、他に例を見ないこのユニークな広告誌は、多くの広告制作者、グラフィックデザイナーたちにとって、貴重な資料であり、次の創作の動力となる大きな刺激でした。『プレスアルト』誌は、今や20世紀の関西を中心とした広告文化とグラフィックデザイン研究に欠かせない資料です。本展覧会は、近年整理を進めてきた大阪新美術館建設準備室所蔵の「プレスアルト」誌コレクションから、1950年代から1970年代を中心とした戦後発刊分を初めて「開梱」します。さらに、大阪府20世紀美術コレクションとサントリーポスターコレクションから選んだこの時代の多彩な広告文化を示すポスター作品を加え、未だ評価の途上にある戦後関西の広告とデザインの新たな魅力をご紹介します。

会期 | 2018年10月2日(火) — 10月13日(土)

会場 | 江之子島文化芸術創造センター(enoco) 4階・ルーム1

開館時間 | 11:00 - 19:00 / 月曜休館・入場無料

主催 | 大阪府立江之子島文化芸術創造センター、大阪新美術館建設準備室

同時開催 | 大阪府20世紀美術コレクション 特集 田中一光 (4階・ルーム2)

企画協力 | 「黎明期広告業界誌『プレスアルト』広告現物全調査に基づく関西の広告史研究」[科学研究費基盤研究(C)16K04117]報告会



レビュー review

enocoおしゃべり美術館

(2018年8月4日～8月26日)

「館内ではお静かにお願いします」。これは美術館でよく目にする(あるいは耳にする)言葉だ。日本でも近年「キッズデー」や「フリートークデー」等を設ける美術館が増えてきているとは言え、だまって静かに鑑賞することが求められる「静寂の場」なのだと感じることも、未だ少なくない。

しかし、今回enocoで開催された展覧会は、そのタイトルからもわかるように、展示室内でのおしゃべりOK。むしろ来場者同士で対話をしながら作品を鑑賞することこそが、展覧会の趣旨として掲げられていた。また、会期中にはくおしゃべり鑑賞を楽しもう!>と題したイベントも複数回開催され、筆者が参加した8/5(日)の回には、近所に住むという小学生や年配の方、家族連れなど、年齢や属性の異なる10名近くが集まった。

イベントでは、enocoスタッフによるナビゲートのもと、出展作の中から2点を計40分程度の時間をかけて鑑賞していく。参加者たちは、それぞれの目に映る作品を各自の言葉で思い思いに描写する。それらの言葉に耳を傾ける時、自分にはなかった視点による気づきがもたらされ、同時にそこから新たな疑問が次々と生まれ広がっていった。印象的だったのが、ひとりで参加していた小学4年生の少女の「答えがひとつじゃないから、おもしろいんだと思う」という一言だ。まさに対話を通した作品鑑賞の、ひいてはアートそのものの醍醐味を表すような言葉に、ハッとさせられた。

「ハコ(美術館)」や「モノ(作品)」だけでなく、そこに「ヒト(鑑賞者)」が加わり、互いに能動的な関係性を築くことで初めて、アートという「コト」は生まれるのではないだろうか。enocoは、くおしゃべり美術館>以外にも、大阪府下の小中学校へ所蔵作品とともに出向き、対話型鑑賞の出張授業を行うプロジェクト<コレクション・キャラバン>も実施している。ハコとモノの双方からヒトにアプローチする、これらenocoの取り組みを通して、今後もたくさんのコト＝アートが起こることを期待している。



写真: 仲川 あい

青山真樹

京都造形芸術大学アートコミュニケーション研究センター(ACC)研究員/非常勤講師。専門領域は鑑賞教育、アート・マネジメント。現代美術家・名和晃平が主宰するスタジオ「SANDWICH」にて、アーティストの作品制作や国内外展覧会およびアート・プロジェクトのマネジメントを担当した後、2016年度よりACCに着任。同大アートプロデュース学科で実施されている対話型鑑賞プロジェクト「ACOP (Art Communication Project)」をベースとした実践プロジェクトを多数展開している。



「これまで」のイベント情報 past events

江之子島地区まちびらきイベント 「えのこじまグルグル」

2018年6月2日

江之子島地区は1874年に大阪府庁が建てられた大阪府庁ゆかりの地です。その地の再開発を行う「江之子島まちづくり事業」では、地域の歴史性・文化性を受け継ぎつつ、アートと都心居住スタイルが融合する、新しい都市空間を創造する試みを進めてきました。enoco開館(2012年)、2棟のマンションの完成(2013、2016年)に続き、この春、地域の医療拠点である日本生命病院が移転・開院し、まちは完成。それを記念して文化と医療と暮らしがミックスした新しい江之子島をめぐるまちびらきイベントを開催しました。

enocoでは昨年度「えのこクラブ」という地域活動のプラットフォームを立ち上げ、今回のまちびらきはそのメンバーが普段の活動をお披露目する機会ともなりました。enocoでは「えのこdeマルシェ」拡大版、マンションのスタジオでは子供も一緒に楽しめるワークショップ、日本生命病院ではオープニングセレモニーが催され、このまちで活動するセント・マーティン・オーケストラによる演奏があったほか、ホスピタルクラウンによるパフォーマンスや近畿大学の学生によるワークショップ、隣接する津波・高潮ステーションでは防災知識を学ぶツアー、近隣の木津川遊歩空間(トコトコダンダン)では思い思いに水辺を楽しむピクニックを開催。約5000人という多くの方に来場いただき、まちの「お誕生日会」はとても賑やかなものになりました。

一番最初にこのまちの住民になったenoco。開館当初は工事のための仮囲いが立ち並ぶ無機質なまちでしたが、今や多くの暮らしや活動があるまちになりました。まちなみさんのすぐそばに文化があり、「何かやってみようかな」と思った時に応援できる・何かできることがあるという日常をこれからもつくりていきたいと思っています。

高坂玲子/enoco企画部門



写真: Ai Hirano / Yui Sukeguchi

ポッセ活動報告01

「KIITOマルシェ参加の感想」

2018年5月26日@KIITO



5月26日、神戸で開催された「KIITOマルシェ」に、えのこじま凸凹ラジオのライターとして参加しました。今年5回目の本チャリティイベントは、病気とたたかう子供とその家族のための療養施設「チャイルド・ケモ・ハウス」への支援が目的で、同日開催の「チャイルド・ケモ・ハウス チャリティウォーク」のゴール地点でもあります。

オープンから大盛況のマルシェは飲食や物販のほか、ユニークなワークショップに好奇心いっぱいの子供たちの笑顔が溢れていました。

私は参加者のお話を伺い、イベント主旨を理解する方が多く、滞在時間も長いことに他のマルシェとの違いを感じました。チャリティウォークに毎年参加する方から「神戸の魅力を知るだけでなく、楽しみながら施設に貢献することができます」と聞き納得しました。参加することで社会貢献への意識が高まる素晴らしいイベントでした。

濱野友希/ポッセ

ポッセとは?

enocoでは今年度よりenocoを中心として活動をするメンバーを「ポッセ」と名付けて活動を開始しました。【posse:ポッセ】は英語で「頼れる仲間」や「集まり」といった意味を持ち、ラテン語では「力を持つ」という意味もあります。ポッセには「提供」と「享受」という学校型の関係ではなく同じ目的に向かって自主的に動いていき、enocoと協働関係を築く事ができればと考えています。

また、誰もがポッセになれるのではなく、enocoの設定するプログラム(enocoの学校など)への参加が必須です。

ポッセ活動報告02

「親子で参加できる!風船チャンバラ!」

2018年8月4日@enoco



enocoが共催するワークショップイベントドアーズ。府内5か所の会場のひとつとなり、多彩な10講座が開催されました。

その中で私たちが開講したのは「親子で参加できる!風船チャンバラ!」。風船で作った剣で、相手の体に貼り付いた紙風船(ライフ)を叩き落とす、というシンプルなチャンバラ大会(チーム対抗)です。チャンバラ3分、作戦会議5分を繰り返す中で、今日集まった参加者がもっと楽しく遊ぶためにはどうすればいいか、みんなで考え、どんどんルールを付け加えていきます。

大人と子どもが対等であることもこのワークの狙いでしたが、途中、10歳の男の子に55歳のおじさんが叱られたり、25歳のお兄さんが指示をされたり、という一幕もありました。

子どもたちの柔軟な発想力に終始大人は圧倒されつつ、楽しい時間を共有して終了しました。

中留庸子(WSD工房)/ポッセ



enocoのひとびと people



この夏からenocoに関わるようになりました。普段は、演劇に携わっています。先日、シアターアクセシビリティの勉強会を開き、無料託児サービスや聴覚障害者対応字幕サービスを実施された劇団のお話を聞きました。どうしても誰もが楽しんで観劇できる場づくりができるか考えている今日この頃です。（企画部門 前田瑞佳）



新しくスタッフになりました野澤です。学生時代からお世話になってきたenocoに関わることになりとても嬉しいです。横浜で生まれ育ち、大学進学を機に京都に移り住んで関西での生活は今年で6年目。とはいえまだまだ大阪初心者ですので、enocoに関わるみなさんに刺激を受けながら頑張っていきたいです！（企画部門 野澤美希）



enocoの隣にあるフラッグスタジオとマークスタジオを拠点に活動しているDECOBOCOの仕事やデザイン、美術の仕事をしています。この度スタッフとしてenocoの業務にも携わるようになりました。9月からは「enocoの学校」こどもアート学科の講師も兼任します。マルチにサヴァイブしていくぞ！（企画部門 小池一馬）

enocolumn 17

アーツカウンシルとは何か／都市の文化を立ち上げる

アーツカウンシルは新しい芸術文化振興の公的な仕組みだ。発祥は第二次世界大戦直後のイギリス、日本では独立行政法人日本芸術文化振興会（前身の設立1966年）が2011年よりアーツカウンシル機能を有しつつあるといえる。地方においてもアーツカウンシル機能を持つ専門組織が順次立ちあがっている。最も早いものは2007年のアーツコミッション・ヨコハマ、2012年に東京アーツカウンシル、その翌年に大阪アーツカウンシルが誕生した。現在、沖縄、大分、浜松、新潟などの各都市に、この新しいアーツカウンシルという仕組みはある。また1996年から活動する“京都アートカウンシル”や、2007年からの“大阪でアーツカウンシルをつくる会”のように芸術系市民団体が名称にアーツカウンシルを用いる場合もある。

私は今年4月より大阪アーツカウンシルの統括

責任者になった。着任してから半期の間に、これからアーツカウンシルを立ち上げるという地方自治体や、準備調査を担う大学教員らの訪問とヒアリングを受けた。つまり、これからも各地で「アーツカウンシル」は立ち上がっていくということだ。

この新しい仕組みに、何が託されているのだろうか。

大阪のみならず世界には魅力的で活気あふれる芸術活動があり、多様なシーンが形成されている。そういった芸術活動やシーンを公的な仕組みを活用して応援する。その応援から、未来に続く都市の文化が、ゆったりと立ち上がる。それがアーツカウンシルに託されていることだと私は考えている。

では具体的にどんな活動をしていくのか。文字数がつきたので続きは稿を改めたい。

中西 美穂

大阪アーツカウンシル統括責任者。

1968年大阪生まれ、学生時代を京都で過ごす。2年間のパリ遊学を経て、2000年より大阪市芸術文化アクションプランに携わり同時に、築港赤レンガ倉庫を拠点としたNPO大阪アーツボリアの代表をつとめる。2007年に国際交流基金知財フェロシップ、2011年に文化庁新進芸術家海外研修制度にてフィリピンのコミュニティアートに参画。事業の大小問わず人々が主体的に関わるアート現場が大好きです。

大阪府 20世紀美術コレクション

1974年から2007年にかけて大阪府が収集した「大阪府20世紀美術コレクション」。

総数およそ7900点の中から、enocoスタッフのおすすめ作品を毎号1点ずつご紹介いたします。

この一点！



「ギリシャの老人」

伊藤継郎(1907-1994)

1967年 / 41cm×32cm / 油彩・キャンバス

伊藤継郎は明治40年、大阪天王寺に生まれました。体が弱く10代で結核を患います。そのために学校へも行けず、16歳のときに母の勧めで絵を描き始めます。人物画を得意とし、のちに鳥や動物、魚をモチーフとした作品を手がけました。茶褐色やセピア系の色彩が多く使われ、絵の具のチューブから直接画面に絵の具を置くといった手法で制作された作品は、重厚な独特のマチエールを湛えています。これらは、陶片の収集や、自宅に窯を築いてテラコッタを作っていた伊藤の土への愛着の現れとも言えるでしょう。

スケッチ旅行によく出かけていた伊藤は、昭和40年初めて海外へ出かけます。ここで紹介する作品は昭和42年、ギリシャで描かれた老人像。小品ですが、伊藤の作品特有の魅力がギュッと濃縮されていて、ギリシャの村で素朴に、そして力強く生きる老人の姿が、観る者の心に焼きつくような、プリミティブでフォークロアな逸品です。この他にも多くの伊藤継郎作品を収蔵しています。またご紹介いたしますので、お楽しみに！

河崎 由香子

enoco企画部門



オン☆ザ☆レビュー

enoco地下1階の古書店、ON THE BOOKS 米田店長によるブックレビュー。アートブック・写真集・デザイン・建築・ファッションからマンガ・音楽・映画・オカルトまで、多彩なラインナップの中から、今の気分をあらわす1冊をご紹介します。



グラゼニ

森高夕次、アダチケイジ

新感覚の野球マンガです。中継ぎピッチャーが主人公。シブい。先発でもなければ抑えでもありません。淡々と日々の仕事をこなします。汗臭さや熱血漢はありません。「それおもしろいの？」と言われそうですが、中継ぎならではの試合の見方、選手と首脳陣のやり取り、勝率や登板数による年棒の事、さらにはマスコミ周辺の事も描かれています。打って投げるだけじゃない、野球人生いろいろ。ストーブリーグやオフシーズンも楽しめる方なら間違いなくハマりますよ！

ON THE BOOKS

営業時間：11:00-20:00（月曜日定休）
掲載の書籍は店頭・オンラインストアで販売中 www.on-the-books.info

米田 雅明

ON THE BOOKS 店長



モノ好き館長 甲賀雅章の 四方山話。

旅、防災の必需品「シュピーラー」常備用！

手榴弾みたいな形状ですが決して危ないモノではありません。

Vol.3

ハッキリ言って、僕は「モノ好き」である。まだ数寄者の域には達していないが。変わった？いや、僕にとっては魅力的な物、者、ものを紹介していきたいと思う。

僕は旅が好きだ。高校時代のかなり無謀な自転車旅行。20代もヒッチハイクをよくした。ちょいとそこらのつもりが気づけば西鹿児島から船に乗っていた。実にいろいろな場所で寝た。30代、40代はダイビングや南の島にはまっていたから、一年に何度も島に滞在していた。でも、いつからか、そんな旅をしなくなった。どちらかといえば、テントやアウトドアライフは苦手だ。何がきっかけかと言えば、身体の事情が大きい。

ある時から「じぬし」になってしまったのだ。トイレに行くのが怖くなってしまった。時を同じくしてウォッシュレット依存症になってしまった。最近の韓国は徐々に日本に近づいているが、他の国ではまずウォッシュレット・トイレが完備されているホテルはない。そんな

僕の不安を解消してくれるプロダクトがこれだ。10年以上前に大じぬしからプレゼントされた。医者から勧められたモノらしい。温水や水を入れて握るだけで水が出てくる。実に原始的構造をもったこやつが実に優れものである。ノズルの角度や形状が本当によく考えられ、無理ない姿勢で的確に勢いよく的にあたる。収納もよく考えられており、旅のお供にはもってこいだ。困るのは空港で赤外線を通すときである。手榴弾に似た形状、9.11後荷物検査で止められ、説明を求められたことがある。携帯おしり洗浄器。。え〜、なんて言うの？英語で。「モバイルビデ！」ポカーンとしていた。このプロダクトの素晴らしいは使ってみなければわからないが、必要ないにこしたことはない。（撮影商品は未使用、新品です。）

